



スターゼン
株式会社

決算説明会資料

2018年
11月27日

証券コード：8043

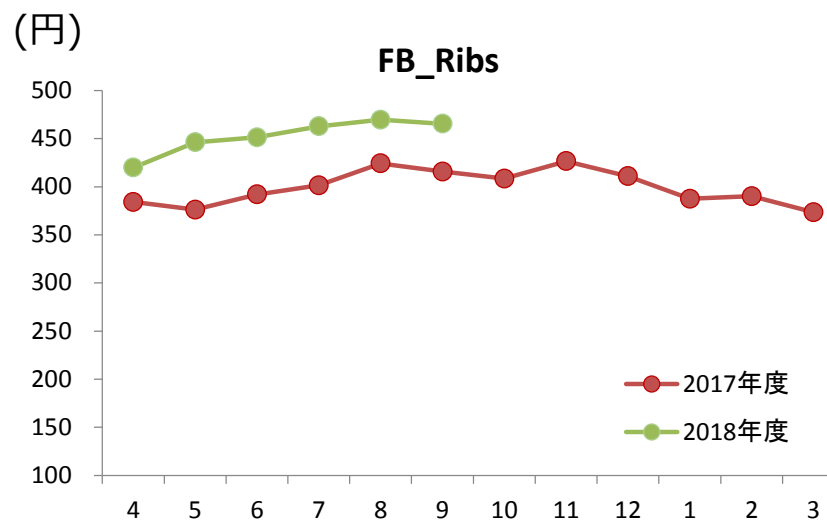
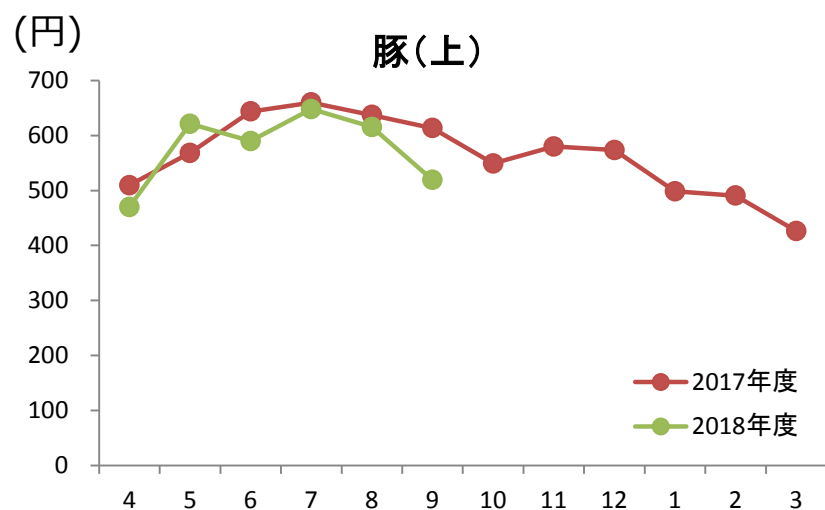
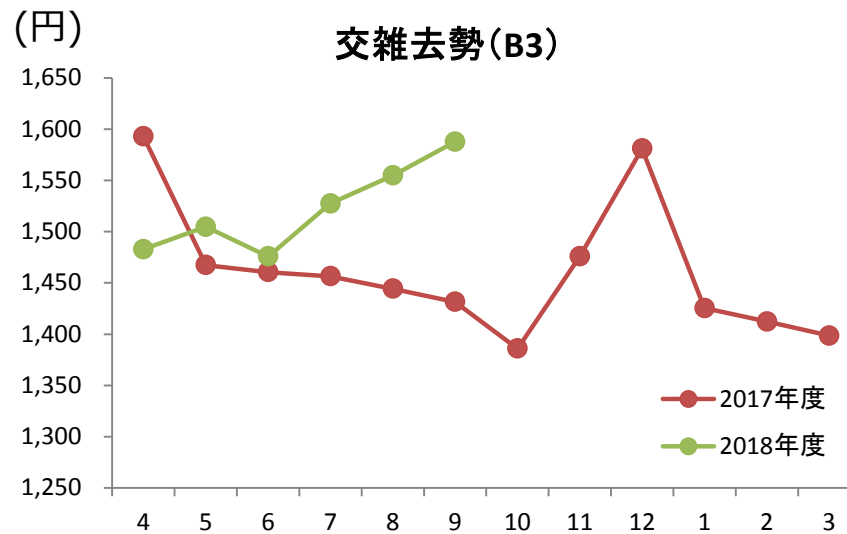
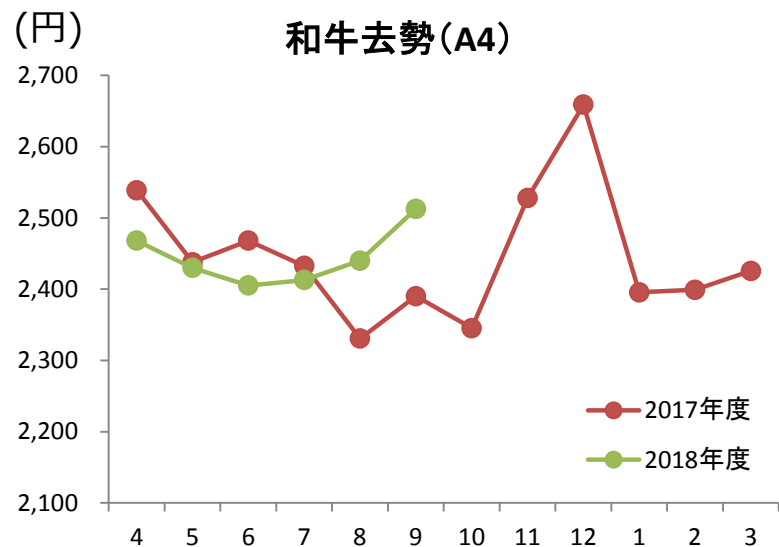
1. 第2四半期決算及び年間見通し

代表取締役副社長 **永野 章**

(経理本部、財務本部、プロジェクト本部 管掌)

業績動向	2019年 3月期 上期実績	売上高は増加、利益は減少 売上高 : 1,740億円 (前期比 +5.1%) 経常利益 : 27億円 (前期比 ▲24.4%) ・食肉、加工食肉とも取扱数量は順調に増加し売上高増加 ・国産牛の仕入相場の高騰、国産豚の仕入相場の乱高下、牛の輸入価格の高騰で利益を圧迫 ・人手不足による人件費の増加、物流量増加による物流費の増加が収益を押し下げ
	2019年 3月期 下期予想	売上高・利益ともに増加 売上高 : 1,809億円 (前期比 +3.7%) 経常利益 : 39億円 (前期比 +9.1%) ・国産豚の仕入相場が落ち着き、販売環境が改善すると予想 ・昨年は12月の国産牛の仕入相場高騰の影響を受けたが、本年度は影響が緩和される見込み ・物流費の抑制に努め、収益の改善に取り組む

相場環境（仕入価格が上昇）



第2四半期業績サマリー



2期比較PL

(単位：億円)

	前期 (17/9)	利益率 (17/9)	当期 (18/9)	利益率 (18/9)	増減額	増減率
売上高	1,656	—	1,740	—	84	5.1%
売上総利益	149	9.1%	150	8.7%	1	0.7%
営業利益	29	1.8%	20	1.2%	▲8	▲30.3%
経常利益	36	2.2%	27	1.6%	▲8	▲24.4%
税前利益	36	2.2%	27	1.6%	▲9	▲26.4%
税後利益	25	1.5%	18	1.1%	▲7	▲27.8%

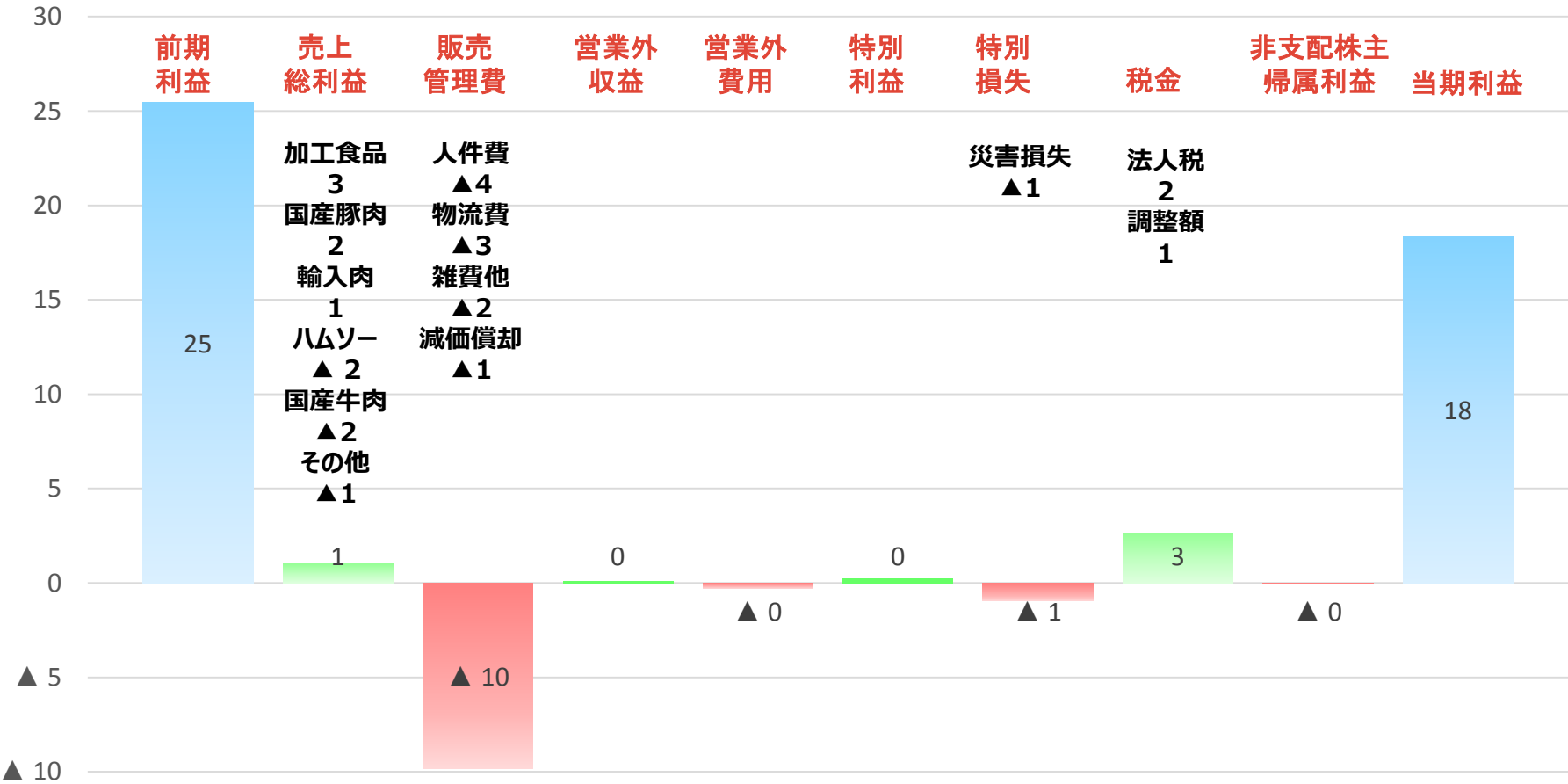
売上高（品目別）

（単位：億円）

	前期 (17/9)	当期 (18/9)	増減額	増減率	構成比
国産食肉	717	723	5	0.7%	41.5%
輸入食肉	606	670	64	10.6%	38.5%
加工食品	241	253	12	5.1%	14.6%
ハム・ソー	68	70	1	2.1%	4.0%
その他	22	22	0	2.8%	1.3%
計	1,656	1,740	84	5.1%	100.0%

損益増減要因概要

(単位：億円)



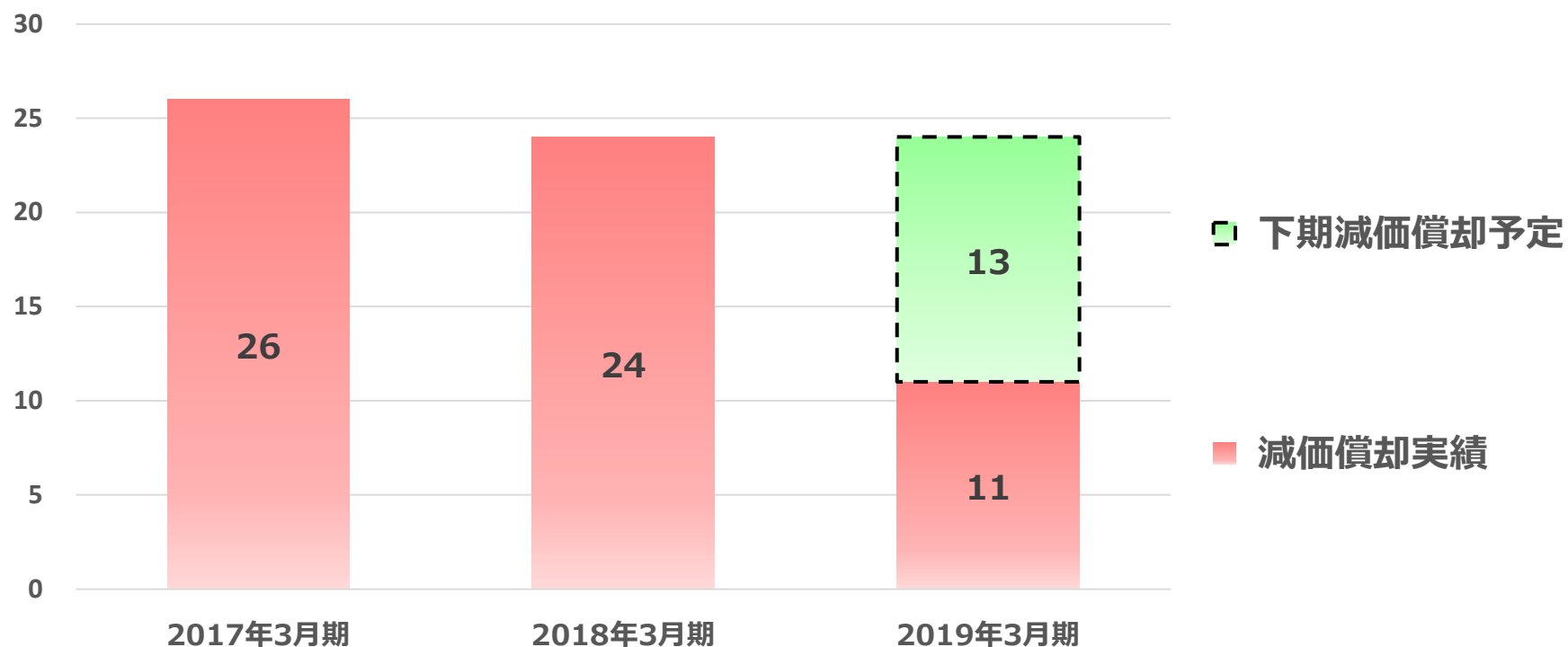
設備投資、減価償却

(単位：億円)

	中期経営計画(3年間)	2019年3月期
		2Q実績(1年目)
設備投資	180	20

【減価償却費】

(単位：億円)



2019年3月期 通期業績予想



(単位：億円)

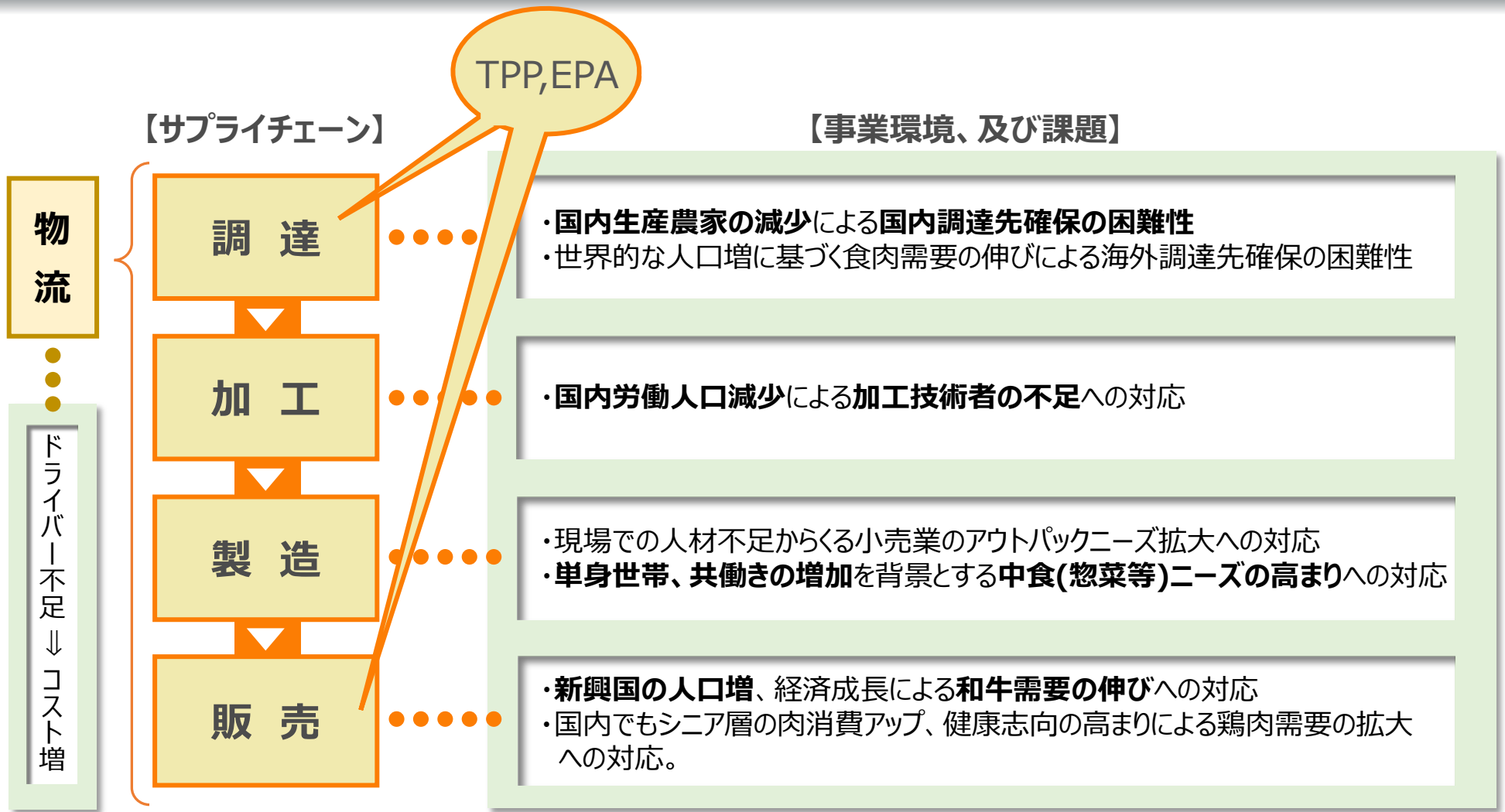
	下半期予想 ①	前期下半期 実績 ②	前期下半期 対比 ③=①÷②	通期予想 ④	前期通期 実績 ⑤	前年通期 対比 ④÷⑤
売上高	1,809	1,744	103.7%	3,550	3,401	104.4%
営業利益	33	29	114.9%	54	58	92.4%
経常利益	39	35	109.1%	67	72	92.2%
税後利益	26	25	103.5%	45	51	87.9%

・下期増収増益要因

- ①売上高・取扱数量は伸ばしており、下期は豚肉の仕入相場が落ち着きを見せる等販売環境が好転。
- ②物流費の上昇幅を抑制できるよう努める。
- ③昨年は12月の国産牛の相場高値の影響を受けたが、本年度は影響が緩和される見込み

2. 取組中の施策

想定事業環境及び課題



中期経営計画

位置づけ

事業環境の変化に対応し、新たなステージへ
ステップアップする3年間

2019年3月期

2020年3月期

2021年3月期

【3つの柱】

攻め

総合食肉加工メーカー
への挑戦

攻めと守りを支える機能強化

コーポレート機能強化

守り

業務プロセス改革による
グループ競争力強化

【最終年度 目標数値】

売上高

3,800億円

営業利益

100億円

取組中の施策 ① 攻め 食肉加工メーカーへの挑戦



◆ハンバーグ新工場 本格稼働◆

10月1日より本格稼働し、製造能力が従前の約1.5倍となりました。



工場外観



製造ライン



新工場完成記念ハンバーグ



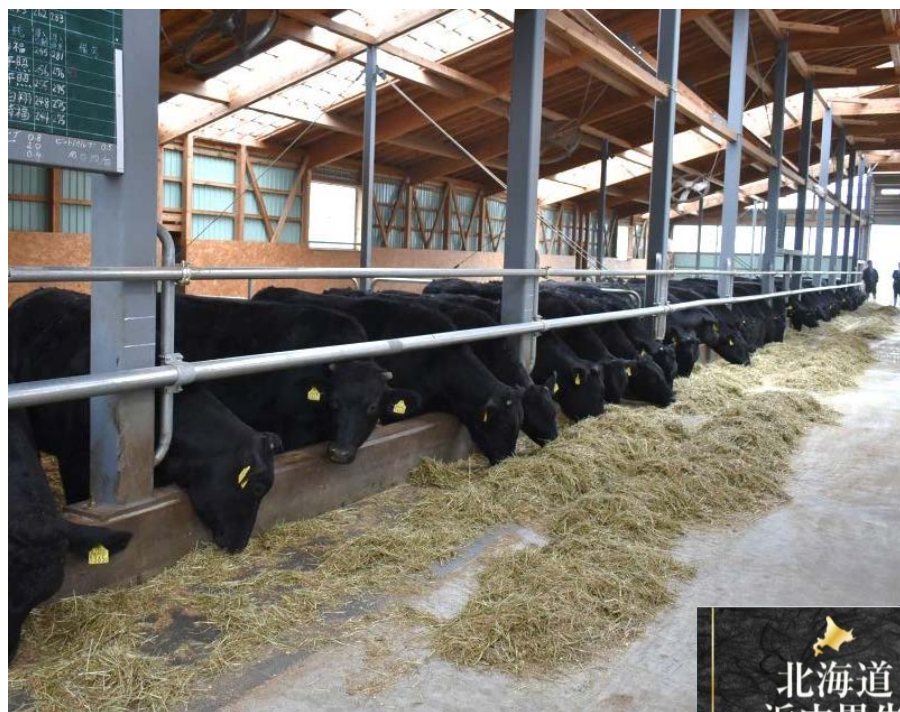
産経新聞(東北版)全面広告

◆ 当社オリジナルブランド牛 誕生 ◆

北海道はまなか肉牛牧場で肥育した『浜中黒牛®』が今年8月初出荷されました。



牧場外観



肥育牛



浜中黒牛販促ラベル

◆プロセスセンター機能の拡充の取り組み◆

販売店舗での人手不足や生鮮品取扱い業態の拡大、ロス率の改善ニーズの高まりに伴いアウトパックを行うプロセスセンター機能を拡充を検討します。



プロセスセンター作業風景

アウトパック・・・小売、スーパー等販売店舗で原料を加工・製造し、出来上がった商品をパッケージするインストアパックに対し、外部に加工・製造、パッケージまでを依頼すること。



プロセスセンター製造商品

◆ 豚肉処理加工工場に除骨ロボットを新規導入 ◆

青森県の三沢ポークセンターに豚うで部位除骨ロボット『ワンドスミニMK II』を導入しました。



ワンドスミニMK II 外観



除骨後の肩甲骨（左：人手、右：ワンドス）



除骨後の上腕骨（左：人手、右：ワンドス）

◆物流の効率化推進◆

物流費の高騰に対応するため、お客様のご理解のもと物流の効率化を推進しています。



ルートセールス

配送・営業の分離推進

共同配送

配送業務の請負

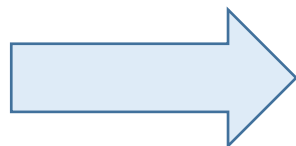
◆グループ会社再編による事務・管理業務の効率化◆

子会社 2 社を合併し、事務・管理部門を集約し組織運営の効率化を図るとともに、グループ全体最適を一層推進し、生産性の向上を目指します。

人事・総務・財務・経理等、
管理部門の重複業務の
削減による事務効率化
を推進

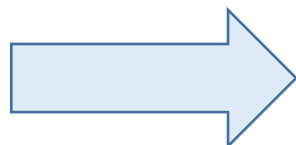
関係会社の取締役会、
株主総会、会計監査等、
機関として要求される業務
の削減

・TPP11について



米国が参加しない予定のため、影響は短期的には軽微。

・日EU EPAについて



相対的に価格の安いハム・ソーセージが輸入される可能性。



(課題)

- ・海外調達先への対応
- ・加工品(ハム・ソーセージなど)の対応



決算説明会 補足資料

2018年
11月27日

証券コード：8043

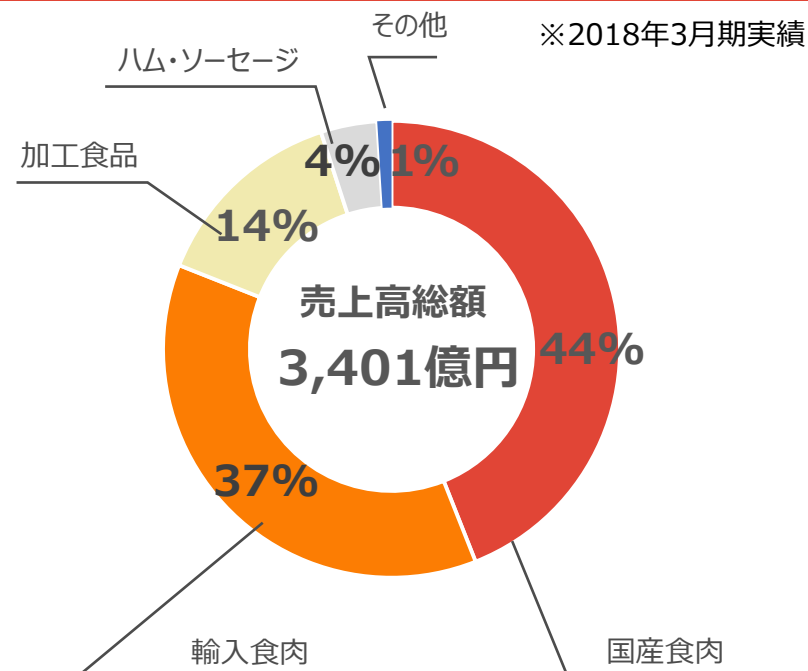
取引状況



生産者からお客様までのすべてに関わるトータルサプライチェーンを構築

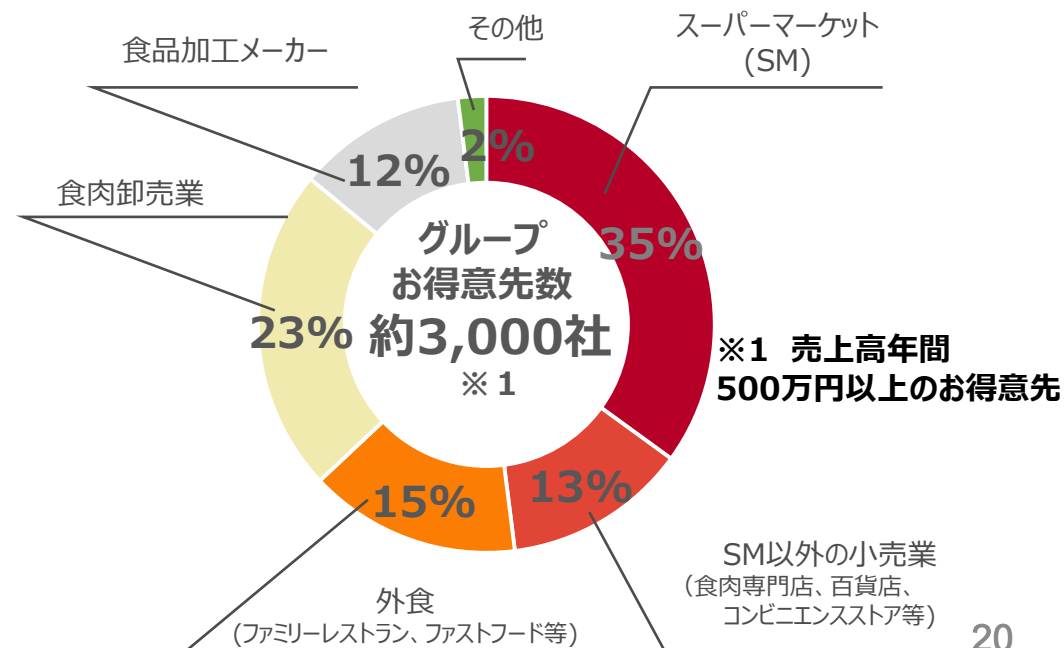
食肉に関しては、**日本有数**
豊富な商品力をもつ

品目別売上げ構成比



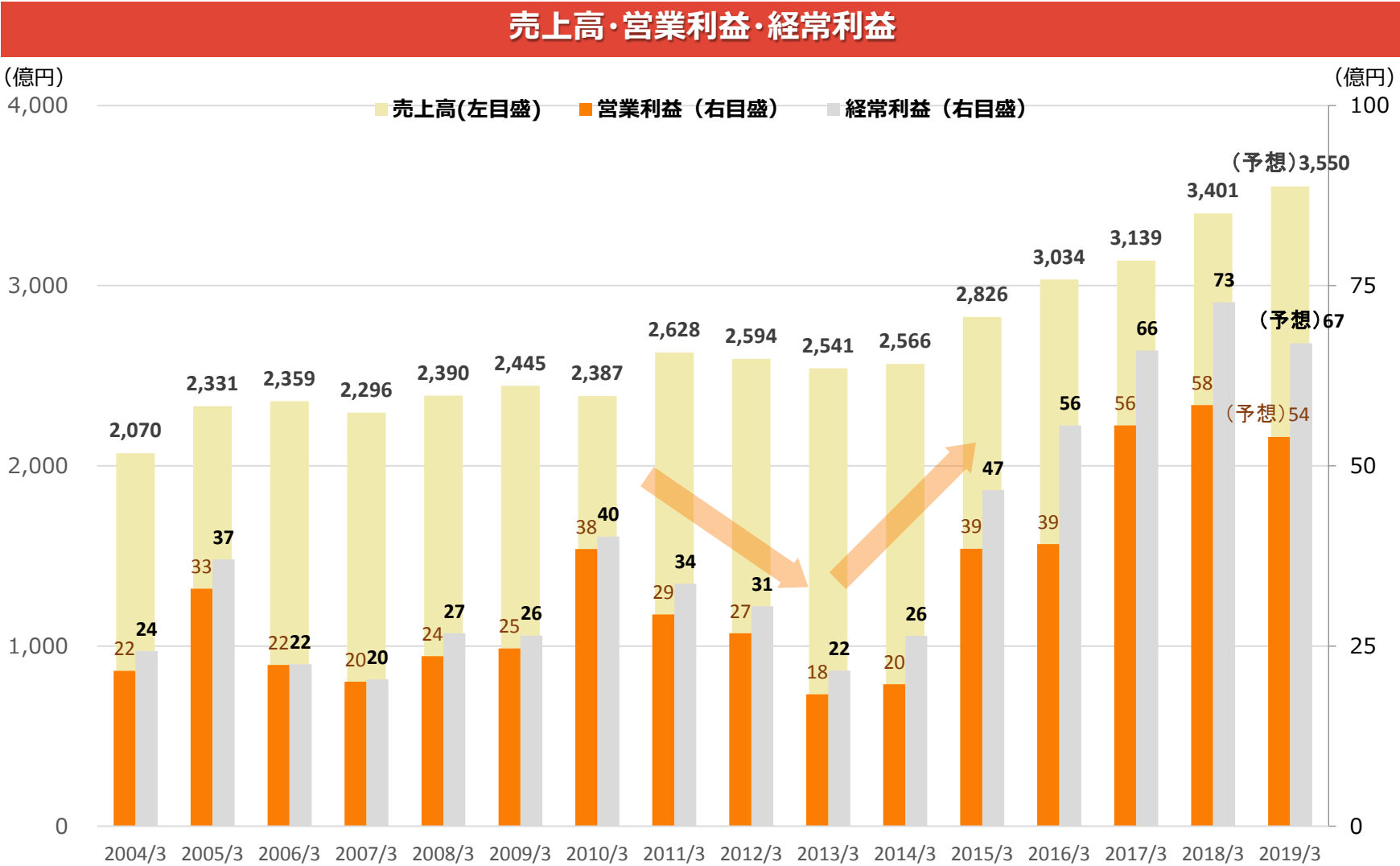
あらゆるチャネルに対応
大半が業務用商品

販売先構成比



過去の業績推移

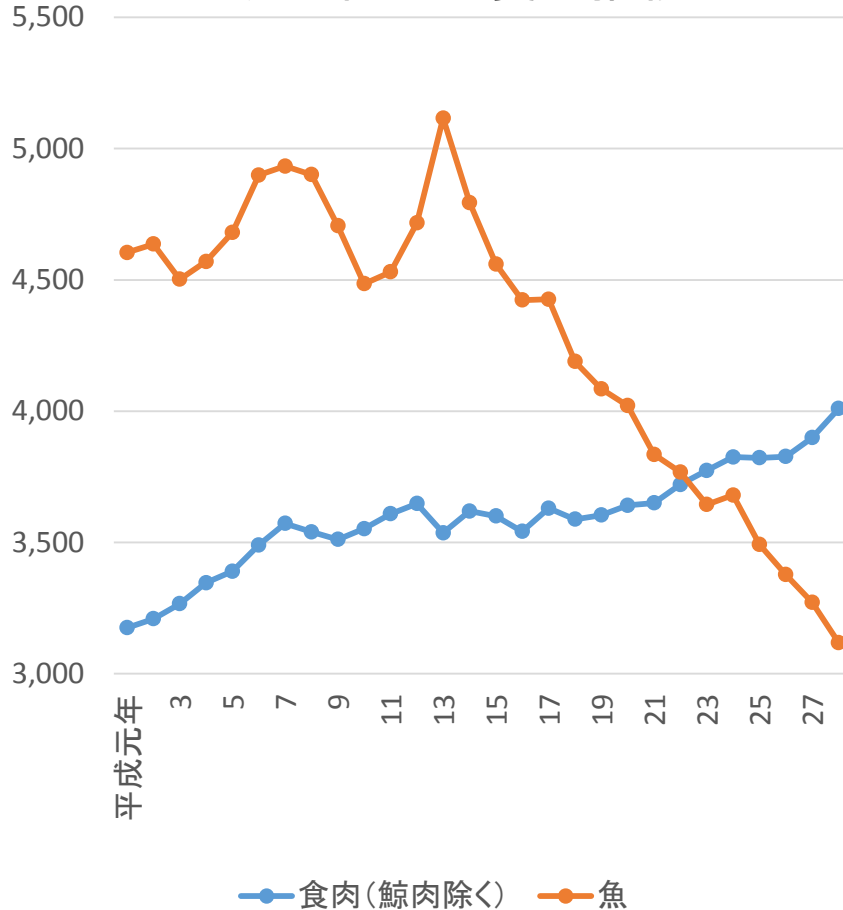
事業の選択と集中+組織再編による効率化+販売力強化⇒V字回復



肉と魚の消費量推移、生産農家数

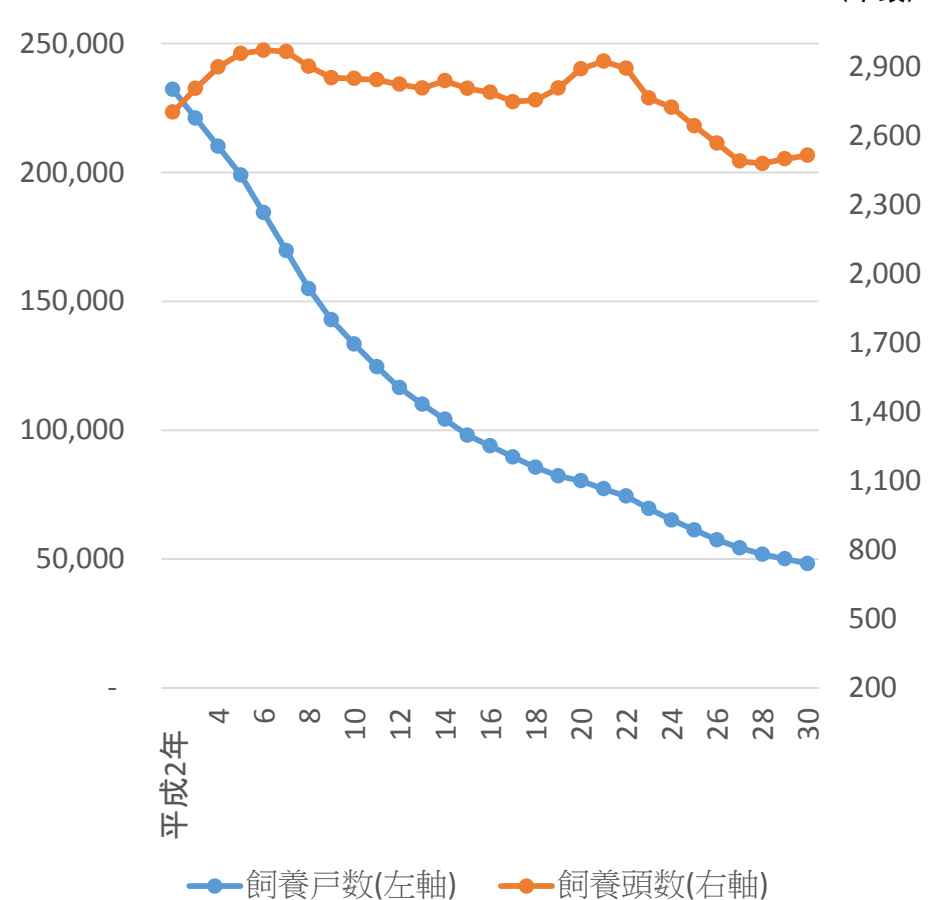
魚から肉へシフト、 スターゼン
一方調達が困難に

(1,000t) 肉と魚の国内消費量推移



農林水産省:食料需給表より 純食料ベース

(戸) 牛飼養戸数と飼養頭数 (千頭)

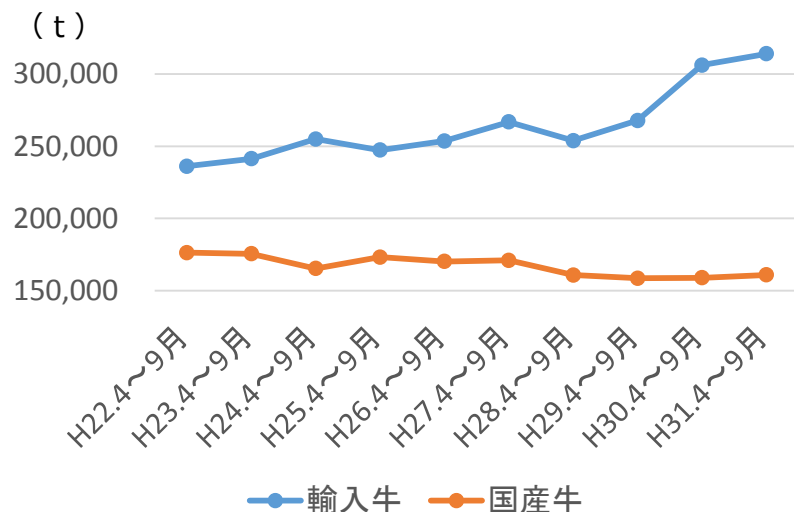


農畜産業振興機構:国内統計資料 肉用牛の飼養動向より

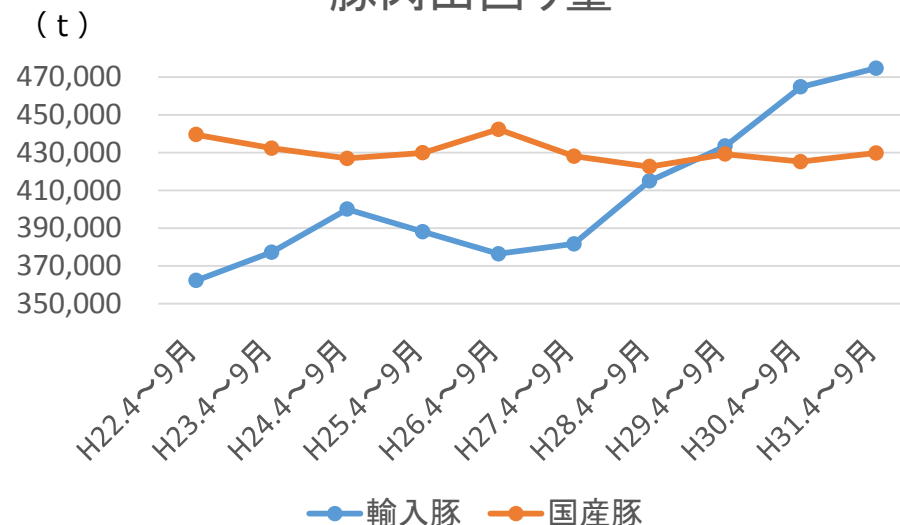
国内食肉流通量(10年間推移)

輸入シフトが鮮明  **スターゼン**

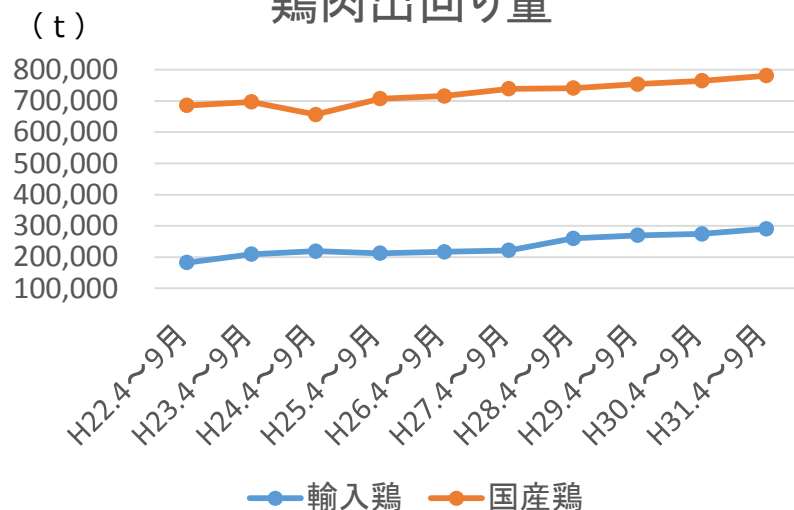
牛肉出回り量



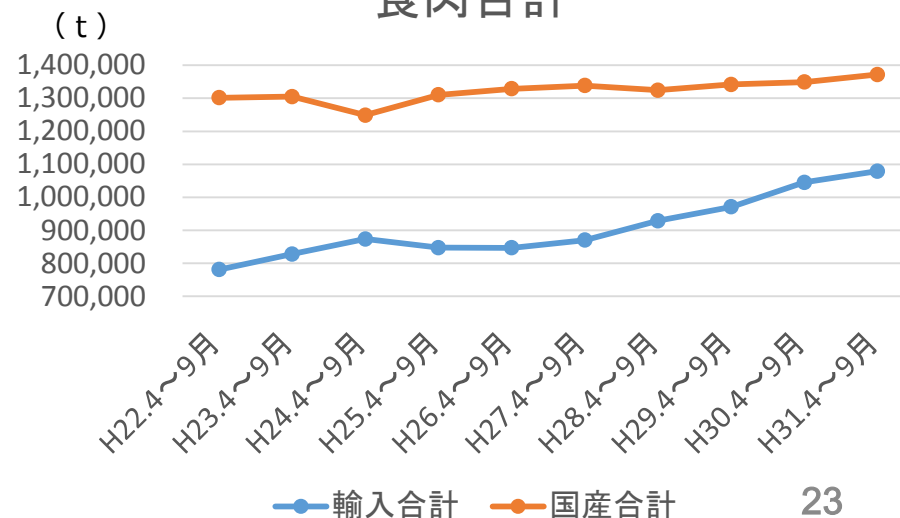
豚肉出回り量



鶏肉出回り量

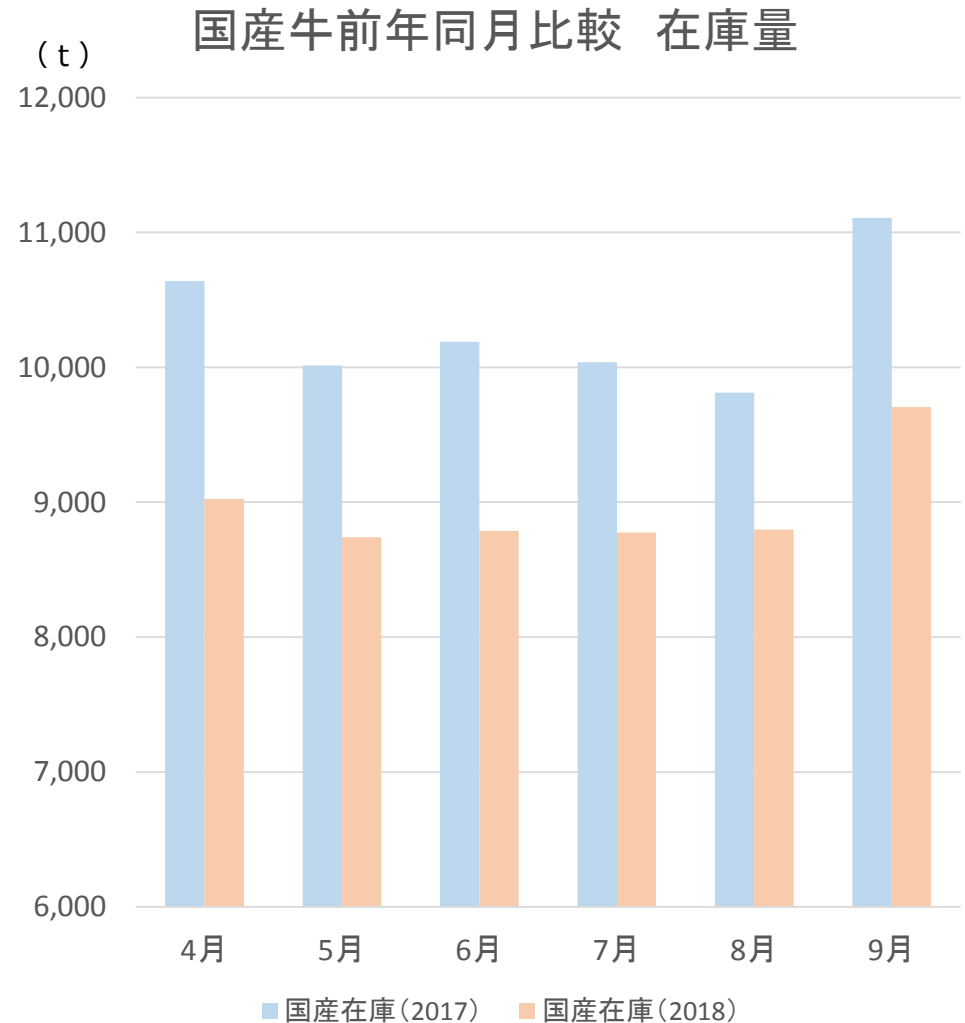
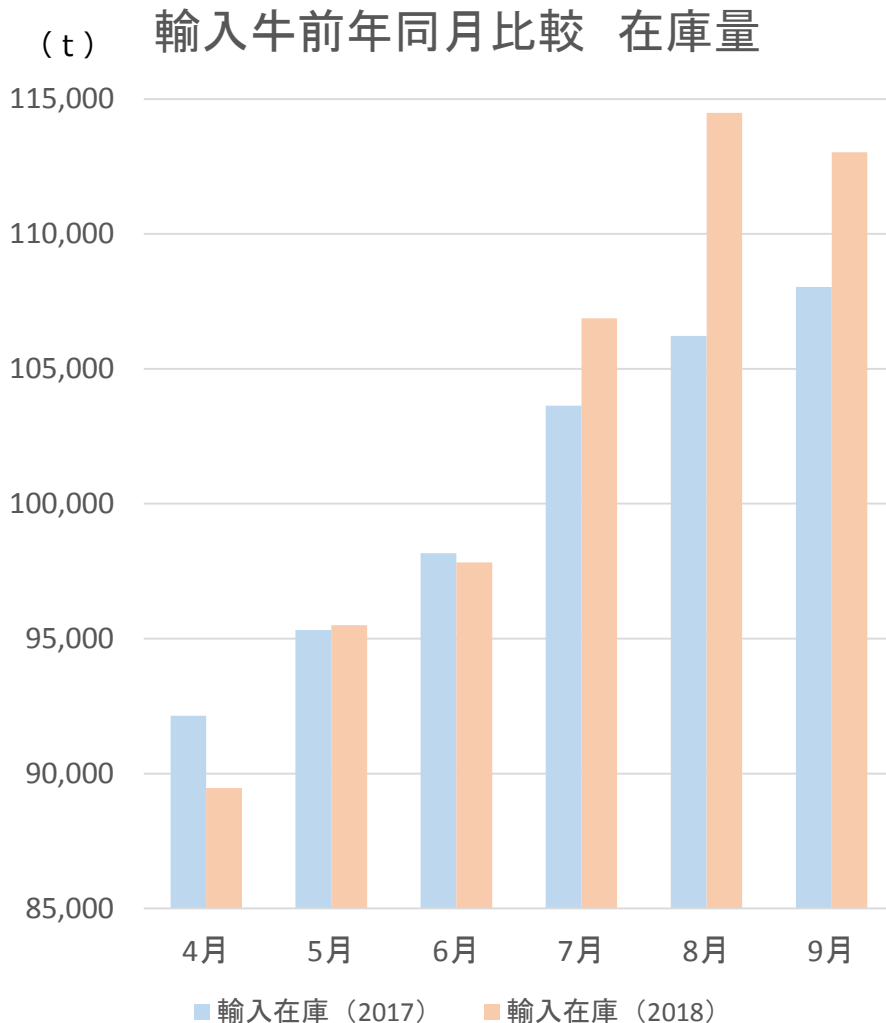


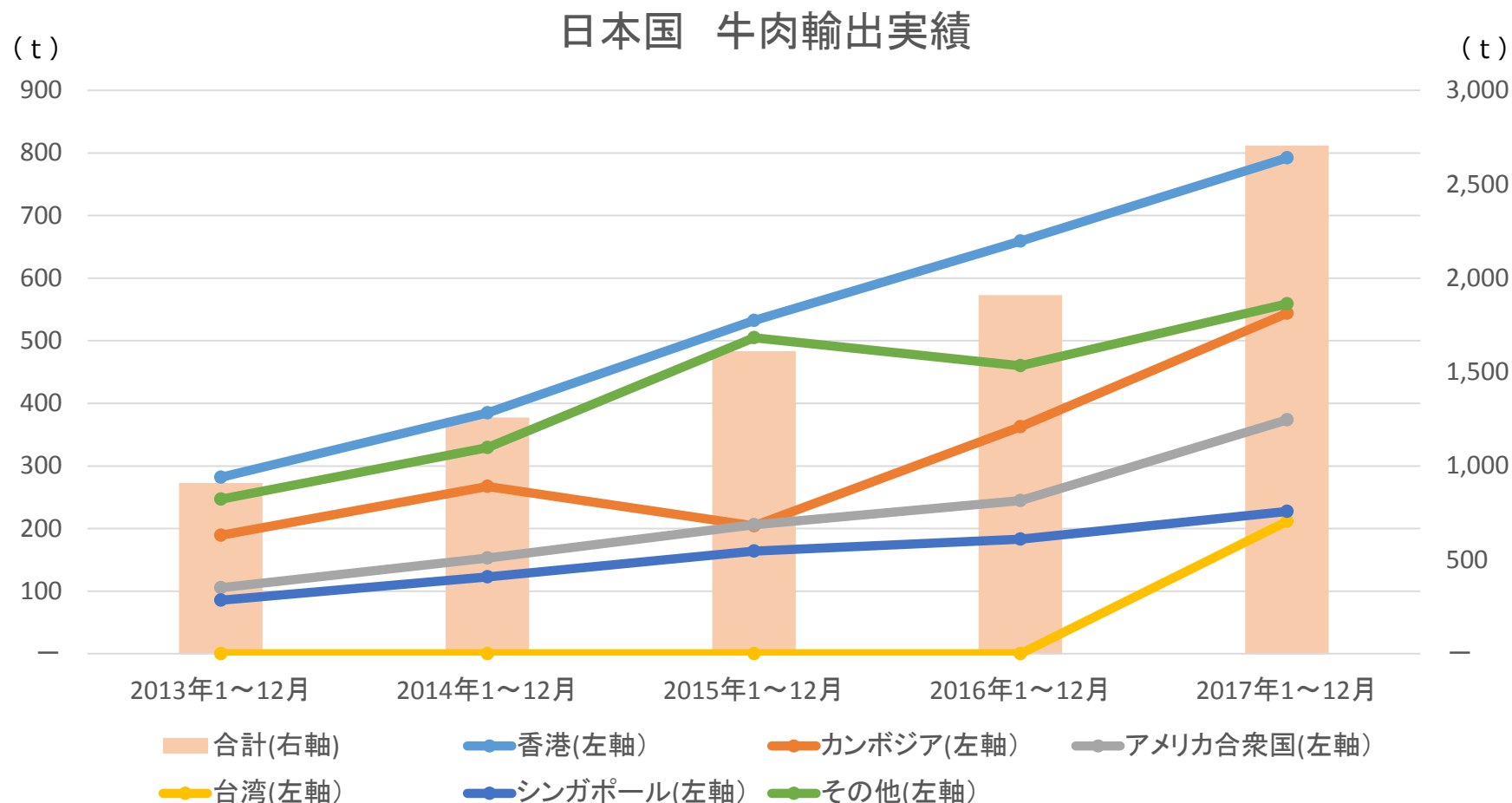
食肉合計



国内食肉在庫量(前年同月比)

輸入牛肉の余剰感あり。価格転嫁がさらに難しく





(参考)2018年4～9月の日本国全体の牛肉輸出実績は前年比+32.1%

農水省：農林水産物輸出入概況より

当資料は投資家の参考に資するため、スターゼン株式会社（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。記載内容は、2018年11月27日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。本発表にて提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みますが、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。